

授業概要

分子生物学の発展によるDNA情報の利用は、犯罪捜査や食品の偽装判別など多岐にわたり、普段の生活と密接に関わってきています。本講義では現代の生命科学研究に必須の分子生物学的手法や遺伝子組換え技術の基本について概説しています。また、最先端の研究を紹介することで、それらの技術がどのように実際の研究へ応用されているかを紹介しています。



学生から



将来、動物に関わる研究をしたいと思っています。そのためにも細胞や遺伝子のことを学ぶことは大切。最先端の遺伝子組換えの技術など、いろんなことが学べて、とても興味深い授業です。

生物生産科学科2年 二瓶直浩

iPS細胞や遺伝子組換えなど授業内容に興味があって、この科目を履修しようと思いましたが、難しいところもありましたが、今日の授業では、iPS細胞の仕組みなどをよく知ることができて、とても勉強になりました。

同 後藤洋祐



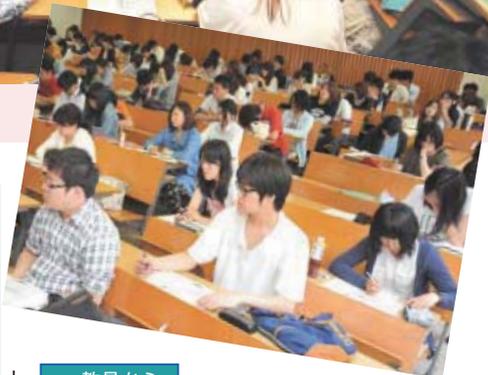
ミャンマーからの留学生です。ミャンマーは農業国ですから、自分の国に何か貢献できればと思って勉強しています。iPS細胞は4つの遺伝子を導入してつくる、という話が興味深いです。日本語は理解できるので、難しい授業にもチャレンジできる。松田先生には、この授業以外にも、メダカの研究の話を聞かせていただきました。

同 ビィ・ビョー・ナイン



高校では「生物」の授業を選ばなかったのですが、だからこそ、新しく聞くことがいっぱいあって新鮮です。この授業には、(文系の)農業経済学の学生もいるので、初心者にもわかりやすく説明してくれます。3、4年の実験で、遺伝子導入など、この授業で得た知識を活かせたらと思います。

同 八板 理



教員から

少し前だったら、「DNA」「遺伝子」と聞いただけで、「難しい」と拒否反応を示す学生も多かったと思いますが、いまは、ふだんの生活と密接に関わってきています。本授業では、農学部の学生の教養としてDNAや遺伝子を理解する、ということを目指しています。

私は、研究所での研究員歴が長く、そのバックボーンを活かして、授業では研究の最先端の部分をできるだけ紹介できるよう心がけています。

研究所時代に知り合ったトップサイエンティストから得る生きた情報、資料を授業のなかで活用しながら、学生たちに最先端の研究を伝えたいと思っています。

もう一つ心がけているのは、「分かりやすく」ということです。この授業を履修している学生のなかには、高校時代「生物」を選択していない学生もいます。

高校の教科書に載っているような基本的なところからスタートして、最先端の部分につなげていく授業の展開を考えています。



バイオサイエンス教育研究センター 松田 勝 准教授